

令和元年度 記者懇談会（第6回）の記録

日 時 令和元年9月30日（月）午後4時00分
場 所 水道庁舎4階 会議室
記者数 7人
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、企画財政部長、経済部長
次 第 1 スマート農業合同視察会2019の開催について
2 ツーリズム EXPO ジャパン 2019 への出展について



スマート農業合同視察会 2019 の開催について

説明内容

(市長)

現在、取り組みを進めているスマート農業について、別紙の通り、合同視察会を開催することにしました。

この視察会は、岩見沢市、それから、本年度から2カ年の事業採択をもとに取り組んでいる「農林水産省 ～ スマート農業加速化実証プロジェクト」の「岩見沢コンソーシアム」との共催になります。ここ数年、岩見沢市におけるスマート農業の取り組みは、国内外からの注目度が高まってきており、先日の鈴木知事の視察や中国政府関係者による現地視察をはじめ、来月にはドイツ連邦議会による視察なども予定され、今年度は、これからの予定分を含め60件以上、詳しくは67件となっている状況にあります。そこで、加速化実証プロジェクトの構成メンバーの北海道大学大学院農学研究院 野口教授と協議した結果、視察を希望される方々による合同での視察会を開催する運びとなりました。

今回の視察会では、自治体ネットワークセンターを遠隔監視施設として位置付け、10キロメートル程度離れた実証ヤード内のロボットトラクターをコントロールするデモを予定し、通信については、NTTグループと連携し、5Gによる映像情報伝送を予定しています。

なお、募集開始は10月7日の予定で、現在、コンソーシアム等との間で最終準備を進めています。準備が整い次第、市のホームページでもお知らせする予定です。

質疑応答

(NHK)

資料によると160人の申し込みを想定しているとのこと、そのくらい問い合わせがあり、需要がありそうということですか。

(市長)

農業関係者を中心に問い合わせを受けており、この状況を踏まえた上で、バス1台当たり40人で最大4台計160人と想定しています。現時点でこれは確定ではありませんので、実際に申し込みが少ない場合は少ない人数で行います。

(NHK)

基本的には農業関係者が多いということですね。

(市長)

事前のご相談は、農業関係者が多いと聞いています。

(NHK)

自治体関係者と比べて生産者の方が多いということですか。

(市長)

ここでいう農業関係者が生産者かどうかはわかりませんが、農業団体や研究機関などがあるかと思います。

(NHK)

ご説明の中でドイツ連邦議会による視察の予定に触れていましたが、それと合同視察会は別物と考えてよろしいですか。

(市長)

合同視察会は、それとは別に実施します。

今まで50件以上その都度、野口先生（注：北海道大学大学院農学研究院教授）と協議し、デモの環境を整えて実施してきましたが、視察の希望が多い状況を踏まえ、JTBと連携し、市内の観光も一部組み合わせて合同視察会を実施することにしました。

(NHK)

ドイツ連邦議会による視察の日程は決まっていますか。

(市長)

10月9日です。

(NHK)

取材してもいいですか。

(市長)

取材が可能か確認し、後でお知らせします。（注：閉会后、出席者に取材が可能であることを周知）

(プレス空知)

まず、農林水産省「スマート農業加速化実証プロジェクト」の「岩見沢コンソーシアム」の構成はどのようなものですか。

次に、観光メニューと組み合わせるとありましたが、当日の流れを教えてください。

さらに、この合同視察会は、最初のマルチメディアホールで映像を見た後、実際の現場に行き体感してもらうという流れでよろしいですか。

(市長)

合同視察会の内容は4つに分かれておりまして、一つが「遠隔操作デモ」として4台のトラクターからの映像伝送を行い、5Gと4Gの画質の違いを見ていただきます。その後、「実証ヤード」に移動して公道走行デモやトラクター4台による協調走行を行います。3つ目が「加速化実証プロジェクト参画圃場」で自動給水栓などを見学していただく。その後、「市内施設見学」として宝水ワイナリーなどの観光関連施設の見学を予定しています。

当日の流れや時間帯は、資料に記載の通りです。

(企画財政部長)

「岩見沢コンソーシアム」の構成は、後ほどお知らせします。（注：閉会后、出席者に次の通り周知 … 【代表機関】北海道大学大学院農学研究院【共

同実証機関】(株)パスコ、NEC ソリューションイノベータ(株)、(株)スマートリンク北海道、(株)クボタ、(株)北海道クボタ、岩見沢市、いわみざわ農業協同組合、いわみざわ地域 ICT (GNSS 等) 農業利活用研究会、北海道 (空知農業改良普及センター) 【実証グループに参画する生産者】(有)新田農場、(有)濱本農場、(株)倉田農場、道下一記)

(プレス空知)

圃場が 1 コースと 2 コースと 2 つありますが、参加者は二手に分かれて見ていただくということですか。

(市長)

そうです。

(北海道新聞)

これまで国内外から視察チームが訪れていますが、参加者を公募し、合同で行う視察会は市として初めてですか。そして、公募による視察会を行おうと考えた狙いを改めて教えてください。

(市長)

一つは、視察の希望が相次ぎ、個別対応が難しくなっていることです。

G20 新潟農業大臣会合の前に中国の農業農村部長である韓さんが視察に来られました。来月 10 月 9 日にはドイツ連邦議会の、10 月 10 日には経団連の視察が予定されています。このような個別の視察にできるだけ対応しますが、それ以外の農業関連団体からのご相談がかなりありますから、あらかじめ設定した日程で視察していただくことにしました。このような取り組みは初めてです。実施に当たりまして、岩見沢市観光協会と事前調整を行い、無人トラクター走行デモや観光施設などを一度に見ていただく環境を整えるということになります。

(北海道新聞)

産業施設や最先端の技術を見ていただき、観光を抱き合わせにするということですか。

(市長)

観光と併せた相乗効果を狙うということですか。当然、観光協会とも相談しています。

(NHK)

NTT との協定を結んでから実際に 5G を使用するところを公開するのは初めてですか。

(市長)

初めてですね。今、整備を進めており、10 月 1 日に試験照射を行う予定と聞いています。

(NHK)

5G の基地局はどこですか。

(市長)

担当課に確認し、後でお知らせします。(注：閉会后、出席者に非公表であることを周知)

ツーリズム EXPO ジャパン 2019 への出展について

説明内容

(市長)

昨年は、岩見沢市観光協会が実施している「ワインタクシー」が「第11回産業観光まちづくり大賞」銀賞を受賞したことから、9月20日から23日までの4日間、東京ビッグサイトで開催された「ツーリズムエキスポジャパン2018」に、特設の産業観光エリアに初めて単独出展を行いました。

昨年の来場者数は20万7千人を数え、一般来場者にパンフレットの配布と併せて1,000人へのアンケートを実施したほか、観光関係企業20社以上との個別商談を行いました。

例年、東京ビッグサイトで開催されていますが、オリンピックの関係で、今年は関西初の開催として、10月24日(木)から27日(日)までの4日間、インテックス大阪を会場に実施されることになり、岩見沢市も引き続き出展することになりました。

昨年は「ワインタクシー」を中心とした産業観光エリアでの出展でしたが、北海道の自治体として、より注目度を高めるため、北海道エリアに出展場所を移し、北海道の自治体として認知されやすい環境を作ることとしました。

また、今年は、ブースの面積が昨年の2倍、とは言ってもそれほど広いわけではありませんが、プロモーションや商談会、観光映像の上映、クイズ等のイベントなどを独自に展開します。

さらに、いわみちゃんのバルーンを設置して、広い会場でも目立つよう工夫を凝らします。

主な内容としては、24日と25日の2日間、観光関係企業対象の商談会を実施し、ワインの試飲や旅行商品のパンフレットを活用して商談を展開することを目的としており、現在のところ、24日には私も参加する予定です。

26日と27日は一般来場者対象で実施されるため、岩見沢観光に関して、スマホやタブレットを活用したアンケートを実施し、ご回答くださった皆さんには「エディブルフラワー」を使ったお菓子を配布します。

4日間とも、観光協会が作成した「旅する岩見沢」や、体験旅行商品のパンフレットの配布を予定しており、昨年も好評だった「花を飾ったフォトフレームを持って、岩見沢ブースの前で写真を撮ってもらおう」ような、楽しい催しも予定しています。

海外からのバイヤーや関係者も多いため、最初の2日間はJTBのほか、メープル・アクティビティ・センターのホジャティさんや元地域おこし協力隊の上井さんと連携し、英語のパンフレットや英語対応できるスタッフを配置し、インバウンド誘致にも取り組みたいと考えています。

関西では初の開催となりますが、主催者によると4日間で13万人の来場者が予想されているため、岩見沢を知らない関西圏の来場者に対してプロモーションを実施したいと考えています。

質疑応答

(北海道新聞)

市長も24日に参加されるとのことですが、一般来場者や企業に岩見沢のどういふ点をPRしようと考えていますか。

(市長)

体験型の旅行商品が揃っており、これらを旅行商品として扱っていただけるように、また、岩見沢は空路・陸路ともにアクセスに恵まれていますので、目的地が岩見沢というだけでなく、他の目的地に向かう場合の通過の際にもご利用いただけるという環境の良さも含めてPRしたいと思っています。

(北海道新聞)

体験型の旅行商品のうち、これまでの利用者や旅行会社の反応がいいものにはどのようなものがありますか。

(市長)

海外、例えばシンガポールの方は花摘み体験ですね。また、メープルロッジでは冬のアクティビティも行っています。これらの体験メニューは好評です。それから今年はグランピングの実績が順調に推移していき、自然を生かし、北海道らしさを満喫していただけるようなメニューが好評だと聞いています。

その他

質疑応答

公約の達成状況などについて

(北海道新聞)

市長の二期目の任期満了まで1年を切りました。

市長が掲げた公約の達成状況やこの3年間で力を入れてきたことを教えてください。

(市長)

毎年、公約の達成度をチェックしており、昨年段階で8割以上の公約に着手済みです。

今年は、第 1 期総合戦略の総仕上げの年であり、これを着実に進めるということ。

現在、総合戦略の検証と成果を次期総合戦略にどのように反映させるのかということについて鋭意取り組んでいるところです。

新たな課題への対応として、新市建設計画に盛り込まれたのに全く検討されていなかったもの、例えば、消防庁舎の建設を早めて実施したり、新しい市庁舎の建設事業に着手しました。

それから、当市の ICT 環境を使い倒すということが総合戦略の主眼の一つでもありましたので、スマート農業など、相乗効果を含め、産・学・官の連携事業として取り組むことができたのではないかと考えています。

日本一と言われる取り組みがいくつか出てきていますので、これらを伸ばすとともに、岩見沢のまちづくりとして「暮らしやすさ」と言いますか、「健康」をキーワードに、第 6 期総合計画で掲げた将来の都市像「人と緑とまちがつながり ともに育み未来をつくる 健康経営都市」の実現に向けて、どのような事業を実施していくのかということのを来年度の当初予算に少しずつでも反映させていきたいと思っています。

公約については先ほども申し上げましたが、今年の段階で 8 割以上、約 9 割ほぼ着手したか一定の成果が出てきました。

ただ、人口減少社会と言われて久しいですが、人口減少対策として当初、重点的に取り組んだことは社会減をどこまで圧縮できるのかということでした。ところが、圏域全体、北海道全体、日本全体でも人口が減っています。この傾向の中で、次期総合戦略では人口減少への対応策が必要だと思えますが、人口が減少する中であっても生活の質を高めていくとか、地域経済の活性化を図っていくという調整場面での積極戦略、「成長」がキーワードになってくるのではないのでしょうか。

国も基本方針を示し、12 月に総合戦略等の取りまとめが行われると思いますが、人口論だけに帰結することが地方創生のすべてではないという認識を実は持っているところです。

(北海道新聞)

この 3 年間で取り組んだことを自己採点すると何点ですか。

(市長)

(同じく任期が残り 1 年だった) 4 年前は 60~70 点の間と言った記憶がありますが、大きく変わらないと思います。70~75 点の間でしょうか。

(北海道新聞)

100 点に足りない残り 25~30 点はどのような部分になると思いますか。

(市長)

まだまだ相乗効果を図っていける分野があるということと、さらにレベルアップを図ることができる余地があるものがあると思っています。正確に分析し

たわけではありませんが、自分の思いとしては「面」や「点」をさらに伸ばしていく。

例えば、自分が一番大きな課題として挙げていたのが雪対策でした。

除排雪事業だけではなく、冬の生活の安全・安心を高めるために総合的な雪対策を実施し、それを拡充している段階です。

除排雪事業の予算は 8 億円台から 14 億円台まで伸ばしましたが、機器の整備にしても大型ロータリー車を 4 台導入し、更新するとともに厚みを付けました。スマート農業で使っている GPS の RTK の補正を使用した除雪を、今年の冬、地図データをもとに、未除雪路線の約 133km 全線で実施します。まだまだレベルアップを図ることができると思っています。

さらに、これからは圏域全体の人口が減りますので、人口が減少する中での都市機能をどのように維持していくのかということも大きな課題だと認識しています。

(北海道新聞)

これから人口が右肩上がりに増えることはあり得ないと思いますが、人口減少を抑制しつつ人口減少に対応した都市づくりを進めるという方向性ですか。

(市長)

人口が大きく増えるということは全国的にも厳しい見通しだと思います。

2060 年の国の人口が 9,300 万人という想定の中でどのように経済発展やいろいろなものを維持していくのかということが課題になっています。

人口減少の影響は、地方都市でも色濃く出てきているのは事実です。それを克服するような観点、総合計画で言えば「健康」というキーワードが一つ大きくあると思います。もう一つは「成長」とか「質の向上」とか、このような観点も必要だと思っています。

地域医療について

(NHK)

先週(9月26日)、厚生労働省が公立病院などの再編・統合の議論が必要な病院名を公表したことについて、岩見沢市ではどのような影響が想定され、市長はどのように受け止めていますか。

(市長)

かねてから全国的に、特に管内の公立病院は経営状況が厳しいという状況がありますし、地域医療圏構想ということで議論が重ねられています。単に病床数だけの問題ではなく、岩見沢市として特に意識しなければならないのは、南空知の救急医療をどのように実施していくのかという観点です。この観点から必要なのは、岩見沢市立総合病院をどのような形の病院を構想していくのかということが重点になるとと思っています。

現在、南空知における岩見沢市の人口シェアは 51% くらいです。年数が経てば経つほど、これが 2040 年には社人研推計だと 56% くらいを占めることにな

り、ウェイトが高くなります。その中で必要な医療を、特に急性期の医療をどのような形で提供していくのかということが課題だと思っています。

(NHK)

そういった地域医療に関する会議は定期的に行われているのでしょうか。

(市長)

それは保健所で。

(北海道新聞)

道の空知総合振興局に、管内の南空知医療圏について音頭を取っていただくことが一番ふさわしいのかもしれませんが、南空知管内で岩見沢市が占めるウェイトが非常に高くなり、「果たすべき役割」ということでは、そのようなときこそリーダーシップを発揮される局面ではないかと思いますが、どうでしょうか。

(市長)

圏域としてどのようなサービスを維持できるのかという観点で、南空知ふるさと市町村圏組合と担当者レベルで議論を始めています。

それとは別の議論で、医療圏だけに関して言えば、急性期を担っているセンター病院は、岩見沢市立総合病院です。これをどのように維持・存続させていくのか、どのように機能の向上を図っていくのかということがまさに重要だと考えます。

高度急性期は札幌が担っていくことで十分だと思っていますが、圏域の急性期をどのように維持していくのか。これは重要な課題だと思っています。急性期という意味では、南空知管内の他の病院よりも岩見沢が担う役割と機能が大きいと思っています。

(プレス空知)

昨年から着手している「新岩見沢市立総合病院建設基本構想」の策定過程で市立病院や南空知圏域の現状を整理していく中、建て替えるための前提としての基本構想と考えてよろしいでしょうか。

(市長)

現在の市立病院だと、工法上、大きな加重をかけることができないため、入院病棟に空調設備を入れることができない、大きくて重い最新機器も入れることができないのです。今後の地域医療の病棟環境で、果たしてこれが維持できるか。

この意味では、改築を含めて検討すべきだということで、基本構想の策定に着手しています。

(飯川副市長)

基本構想は、南空知圏域の分析と、岩見沢市として将来的にどのような医療を提供できるかということをしっかり分析した上で、市立病院の改築に当たっての方向性を示すための基本構想です。

(市長)

市議会でもお答えしましたが、現在地での改築は厳しいと考えています。

昨年の議論では、これからの医療環境を維持して向上させるために、基本構想は建て替えに向けての構想ですということでした。よく建設場所はどこですかと尋ねられますが、それはまだまだ何も。

ただ、医療を取り巻く環境が大きく変わってきているのは事実です。基本構想の策定に着手する段階ではまだ想定されていませんでしたが、北海道中央労災病院が病床数を大きく減らしたという状況もあります。このようなことを踏まえて基本構想を固めていかなければならないと考えています。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)